

洋書輸入協会会報

VOL. 1
NO. 6

昭和42年10月

懇談会の報告

予てご案内致しました通り9月20日(木)日本出版クラブに於て、30社のご出席を得て懇談会を開催致しました。既にJBIA No. 19にてご報告申し上げて居りますので概要をお知らせ致します。

先づ桜井理事長代理より懸案の東西両事務所開所及び基金の収支報告がなされました。

引続き監事2名の就任、各委員会の発足報告、並に各委員長の活動報告が行なわれました。

関西支部開所式に列席の(株)紀伊国屋書店、相良氏より支部情况等の説明が行なわれました。

以上の報告に続いて種々懇談の内に意見の交換をし散会しました。

理事会報告 9月11日(月)

懇談会開催決定、議題並に日時決定。

関西支部開所式列席の(株)紀伊国屋書店、(株)国際書房、日本出版貿易(株)より支部情況報告。

入会希望の富士商事(株)東京都北区田端町は再調査することとし一時保留と決定。

新版会員名簿(和、英文)並に規約書は誤字訂正の上会員61社に名簿各2部、規約書1部、出先会員には各1部送附することに決定。

引続き総務、経営研究、会報、渉外PR委員会より夫々報告があり理事会の了承を得ました。

総務委員会報告

10月5日(木)本部事務所に於て委員会開催。協会上半期の収支報告並に協会帖簿類の税務上依る整備報告並に委員会希望条項中入れの審議、協会規約の内、監事の項目挿入の件、事務所使用に関する規定を審議。

雑誌欠号委員会報告

誤配実態調査依頼を会員各位に6月より8月までの3ヶ月間お願い致しましたところ各社(9社)よりご報告をいただきました。(3ヶ月間継続的にご報告をいただきましたのは7社)。

ご多忙のところご協力下さいまして有難うございました。

各社のご報告はそのまゝリストで東京郵政局次一郵務部次二業務課に各報告書の実態の説明と併せ提出致しました。当局ではこれらの資料を検討し、実態を各担当郵便局に知らせ、この様な誤配をさける様厳重に注意を与えるとの事でした。

今回の資料では、誤配率平均0.5%位の様ですが、資料提出社が少ない上に、調査期間も短かく、又基礎資料にもまちまちなどがあった為、集計数字にあまり統計資料的意味がないように思われます。

結果的には、発生誤配分の個々の実例を示し、これを基礎にして同じような誤配を繰返さない様当局に注意を促したことになりますが、洋書輸入協会々員の今回の誤配不着に対する強い関心が当局に通じ今後いくらかでも是正されれば幸いと存じます。

海外出版 三原

関西支部だより

42.8.30 役員会開催（於新事務所）

丹羽（緑書房）外役員6社出席、事務所開所に伴う諸事項を決定（開所式9月9日実施）

42.9.9 新事務所に於て開所式挙行、式に先立ち東京本部より相良氏、村山氏、服部氏を迎えて役員会を開催。PM0—2.30、開所式PM3.00—5.00、東京よりの理事3氏を加えて計32社出席のもと盛大に行う。式は丹羽副支部長の経過報告、開会の辞につづいて和田支部長代理の挨拶、相良氏の祝辞、服部氏発声による乾杯の後自由懇談に入り、（パーティー型式による）5.00散会す。

42.9.14 役員会 PM3.00—5.00 和田支部長以下7社出席。9月月例会予定。事務所使用規定、新しい役員分担表の協議を行い原案を決定す。

42.9.20 田辺顧問来阪。突然の事でもあり坂本氏（独亜）のみ懇談す。

42.9.22 例会開催（17社出席）pergamon press の立協氏来所。約50分会員と懇談さる。

事務所使用規定案、役員分担表を承認して懇談す。尚この機会に代価の適正証明事務を開始する事を決定す。

尚新事務所開設以来会員相互の連絡等の為連日使用中込が殺倒し9日以降9/30迄に19回使用されている。

会 員 紹 介

“アジアを結ぶ” グヌング・アグング商会

前大戦直後の混乱時インドネシアのジャカルタ市街の道路上で煙草の一本売をしていた一青年がいた。小学3年の学歴しかなかった彼から誰が今日の彼マサグング氏を想像し得たらう。着のみ着のまま帰りの旅費も無く日本に來た彼は本屋に興味を感じ日本で得た良き友の助言により帰国後書籍輸入を始めた。今日では世界の版元で彼を知らないものがない程の東南アジア屈指の書籍商にのし上り、その支店、合併会社はインドネシア主要都市に所在し、又シンガポールで書籍商として唯一の上場会社 Malaysia Publishing House を数十万弗を投じて買取り、東京にも支店を設置した。これが当社であり、インドネシア、マレーシアの書籍の輸入販売の他に英文書、リプリント、印刷製本の輸出、バリ島木彫品、ジャワ更紗等を中心とするインドネシア民芸品の輸入も行っている。御承知の現状下同国との輸出入は種々困難があるが、同社日本側の代表役員である日本出版貿易村山常務が儲からない書籍の輸入に努力している。尚シンガポール、インドネシア方面へお出掛けの節、同氏に相談下されば多大？の便宜を計らいます。

“迅速確実”本位に ゲーテ書房

同社上村社長は終戦直后その所属していた三菱商事傘下の一会社の代表として派遣されていたが、財閥解体により、その会社を単独で経営する立場におかれた。その際この会社を経営し乍ら一方で自己の一つのイメージを実現する事を決意した。即ち(1)貿易経験を生かして何らかの世界文化交流にたづさわること(2)自己の趣味を企業の上に生かすこと(3)小企業としても永續可能なもの、そして書籍類の輸入こそこれ等の条件を満たしてくれるものとの結論を得、種々の点で関係の深かった独乙書を主体とする輸入会社を企画し1950年故児島喜久雄先生の命名による本会社が誕生した。以来(1)迅速確実(2)少数精鋭主義(3)懇切丁寧(4)間口広げず奥行深くを経営方針とし、大方の信頼を得今日に至った。特記すべきは世界への独乙語及び独乙文化普及の為めすばらしい出版をつづけ江湖に名声をとまらせている MAX HUEBER との間に本邦一手法売契約が成立し一段と飛躍しつつある事である。

尚上村社長は従来の別会社に於ても室内装飾関係で数件の独乙の一手輸入権を獲て、有名デパートへ販売している関係上、数回に亘る欧州出張で独乙に於ける出版元及古書店とも緊密な関係を結んでいる。

洋書こぼれ話

明治回顧 (二)

福本初太郎

本の買い方いろいろ

学者が自分や学校で本を購入する場合、その人なりによりいろいろの買い方をされる。

目白の日本女子大学図書館には、かなりの洋書があった。それは初代の学長成瀬仁蔵先生が無類のビブリオフィルであったためでしょう。

先生は教育者であると同時に「政治家」でもあった。先生は学校の図書館に買入れる本を、ご自分で本棚からあまり選ばれることはしなかった。丸善へおいでになると、まず、どっかりと椅子に腰かけられて、私が挨拶に行くのを待たれた。私は先生の興味を持たれそうな、婦人問題、文化の問題、あまり専門的でない政治問題等の本を新刊書の棚から探し集めて先生のテーブルへ運んだ。先生はそのなかの二、三冊をペラペラと見ておられるうちに、やがて、ササヤと眠られてしまう。しばらくすると眼をさまされて曰く。「これを図書館へ届けて呉れ」と、いとも厳かに言われる。その場合いつも一冊残らず全部であった。こうなると、こちらも本を選ぶのに真剣にならざるを得ない。勿論お支払いは極上。

講義の材料集め

一ツ橋大学の学長であった三浦新七先生は稀に見る読書家であった。先生の図書館長時代に招かれてある日鎌倉材木座のお宅にお邪魔をした。それこそ座敷いっぱいどころではなく、どの部屋もどの部屋も本本本、小さな図書館など、とても足下にも及ばなかった。

先生が或る時、「来年の学校の講義にボンベイの壁画を話したいから材料を集めて呉れ」と言われて苦心をしたことがあった。そこで型録による文献はもうすにおよばず、神田の古書店街を探し廻って若干の部数を集め責を果たしたことがある。若年の私にとって誠に光栄であった。

不思議に一ツ橋大学には三浦新七先生といい、左右田喜一郎先生といい、経済哲学者で文化史を研究された学者がいた。恰度ドイツのシュトラスブルグ大学のゲオルグ・ジンメル博士のような傾向の学者である。尤も、三浦先生はペ

ルリン大学のクルト・ブライジヒ教授に師事し、ご専門は古代文化史であり、左右田先生はチュービンゲン大学に学びハインリヒ・リッケルト学派の影響を受けられた違いはあったが。蛇足ですが、お二人とも銀行の頭取で、左右田先生は左右田銀行、三浦先生は両毛銀行。なお、三浦先生は貴族院の多額納税議員で、「自分は別に収入があるから」との理由で議員の歳費を受け取ったことはなかった。今時の議員諸公とは、ちょっとばかり…………。

本の早読み

本を読むのに、ユックリ読む人と、素早く読む人とがある。早読みでは内田魯庵先生と小山内薫先生はその白眉であった。内田先生は丸善の「学灯」に毎号書評を載せられていたが、その原稿を書くことの早いこと。当時先生は週一、二回出勤されていたが、その机の上にはいつも山のように新刊書が積まれていた。先生はこれを片っ端から読まれて——或いは見られてゆく。四、五時間もたつと、十冊ぐらいの本は書評を書いてしまう。また先生は、たいへん博学であるという評判であった。私は暫らくのあいだ、先生と同じ部屋で仕事をし、よく先生から種々のことを頼まれた。先生の机の側には、いつも New International Encyclopaedia が置いてあった。面会の人があると、先ずその人の専門の箇所を例の百科辞典で調べ、それから訪問客に渡し、盛んにまくしたてる。専門家は舌を巻いて帰っていった。これは少しうがち過ぎたかな…………。

小山内薫先生も早読みでは人後に落ちない。先生が新刊書の陳列棚から二、三冊を求められると、翌月にはその本が先生の手によって自由劇場で上演される。月末には素晴らしい綺麗な奥様が本代を払いにおいてになる。

先生のメーテルリンクの「タンタージュの死」と、白樺の同人だった郡虎彦さんの「道成寺」とが同時に上演されたことがあった。私も先生から切符をいただいて見に行った。あとで郡さんが、先生のこの翻訳と演出をたいへん褒めていたのを聞いたことがあった。兎に角先生は名翻訳家であった。

海の向うのクリスマス商戦

この号が発行される頃は会員各社の歳末商戦まさにたけなわの事であらう。「ドイツ書店協会」は毎年クリスマス後に各書店から綿密なアンケートをとり、それを翌春発表しているが、こゝで彼地の1966年のクリスマスがどんな景気であったかを、かいつまんで御紹介してみよう。勿論、国情・習慣の相違から、そのすべてが我々の参考になるというものではないが、経営に対する熱心な批判や分析は見習うべき点多々あるように思われる。

まづこの年はドイツの学制が始まり1月から新学年が始まることになった為、クリスマス直前に教科書類の販売が行われたことに関する不満が爆発する。「店はジャリ共で一杯、まともなお客は恐れをなして近寄らなかった」——「親達は学校の本をプレゼントに使うらしく肝心の贈答用書籍の売行はさっぱり振わなかった」というような悲鳴が

氾濫している。連立内閣誕生前の不安な政治情勢を反映して「官公庁の予算節減による痛手は大きかった」と嘆く傍ら「我々の見通しが甘かったことを痛感する」と即座に反省するあたり、不屈のゲルマン魂いまだ衰えずの感がある。すべてのアンケートに共通している点は、売行不振のものとして——豪華本的美術書、高価な名著類、額面の張る贈答用写真集——等があげられ、その反対に——百科辞典、ペーパーバック、現代語訳古典——等が良好な売行をみせたと報告されている事である。「お客は実に慎重に買物をするようになった」とか「従来平均して50~100マルクであった会社関係の贈答品が20~30マルクに下落した」という声と同時に「にもかゝらず昨年を上回る売上を計上できた事は如何に我々が苛酷な労働を強いられたかを物語るものである」と悲痛な声が挙げられるあたり、同業として身につまされるものがある。「協会が価格問題についてイニシャチーブをとることが是非必要である。今年にな

って何人かの上得意を失ったが、それは他の同業者の割引販売によるものであった”という回答は、海の向うの話として看過出来ないものである。

宣伝の媒体として誰もが一番に推しているのはテレビである。テレビ放送をされた作品の売行は急カーブをえがくことが各所で言及されている。それに反して新聞、雑誌のそれは功罪相半ばするようである。“同業三社と共同で新聞に八頁にわたる広告を出したが、ほとんど効果がなかった”というのは、お気の毒という他ないが、“ジャーナリストを招待して本の話などしたところ、その記事がクリスマス10日前に掲載されて良い反響をもたらし、一頁半の無料広告となった”というチャッカリ組もある。

本の宣伝開始と実際の出版時期があまりに隔たっている

為の混乱も随所に散見される。“出版社の熱心さは判らぬでもないが、クリスマス用に予定していたものが、「明春発行予定」という伝票一枚で片づけられるのでは頭に来る”と憤慨する本屋のオヤジもいる。

ドイツの奇蹟、といわれた経済界の好況も漸く下降線を示し出した年だけに、あまり景気の良い話は出て来ないが、「増加価値税」などという新しい税制が施行されることになって産業界は大分あわてているようである。この「ドイツ書店協会報」にも、毎号のように新税制に関する論評や解説が為され、又“本の価格は絶対に値上げさせるな”と呼びかけているが、果してそう号令通りに事がおさまるかどうか。値上げムードは海の向うも、こちらとさして変りはないようである。(文責・会報委員SU)

NEWS 欄

■ 英 Collet's 社の Mr. Wm. Norris 来日。9月27日 関係者を集めてパーティが行われた。

■ 1966年におけるソ連の出版

1. 書籍及びパンフレット

発行点数	72,966点	前年比	4.1%減少
発行部数	12億6,050万部	“	1.5%減少

2. 雑誌と継続刊行出版物

発行点数	前年比	12.9%増加
年間発行部数	“	26.4% “

3. 新聞（コルホーズの発行部数の多い新聞もふくむ）

発行種類	7,967種
年間発行部数	245億部

■ スコットランド貿易使節団が10月3日より19日まで日本を訪れたが、その一員に W. R. Chambers Ltd. の Mr. A. S. Chambers が加わっておられた。尚、10月4日に英国大使館においてレセプションが開かれ、関係者との懇談が行われた。

100社を越える米英出版社の

代表的出版物を豊富にストック

——貴社の御負担で在庫をおかかえになる必要はありません

ご注文、お問合せのスピーディな代行業務

——海外発注、送金、クレームのお手間を省いて下さい

カタログ等情報資料の完備

——貴社の資料に、お客様へのプロモーション用に何部でも御請求下さい。



United Publishers Services Ltd.

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

(旧ドナルド・ムーア社)

東京都千代田区麹町 4-1 志村ビル TEL (262) 5278 (代表)

昭和 42 年 10 月 第 6 号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
東京都中央区日本橋江戸橋 1-15-5 藍沢ビル 302 号室 電話 271-6901
関西支部 大阪市北区芝田町 28 才一山中ビル 電話 371-5329